

平成18年度研究開発実施報告書（要約）

〔研究開発課題〕

表現に関する内容を統合した教科を創設し、感じる心を大切にしながら豊かな表現力の育成を目指した研究開発

〔研究の概要〕

豊かな表現は、集団の中での存在感や自己肯定感、自然や美しいものに感動する心や創作する喜びによって支えられる。そこで、集団の中での存在感や自己肯定感を高め、他との交流・コミュニケーションを円滑にしながら自分を表現していく時間「キラリ科」を全学年で設定し、表現力の育成を軸にした教育課程を編成する。

具体的には、表現する楽しさを味わわせ、言葉や身体などで表現する基礎的な技能を身につけさせるために、児童の想像力を働かせて思いをかたちにしていく過程を大切にしながら教材や指導方法について研究を進める。また、各教科等において表現に関連する内容を洗い出し、他の教科等との連携を図り、さまざまな表現に出合う機会を設けたり、学年の発達段階に合った劇を創作し発表させたりしながら、自分らしさを発揮して生き生きと表現できる児童を育てる方策を探る。

〔研究開発の内容〕

1. 研究の仮説等

- ① 身近な環境の中でいろいろな人や自然に関わる体験活動や、読書などの活動を重視し、それらの活動を通して心に残ったことや想像したことを演劇的な方法で心情豊かに表現するための時間として、「キラリ科」を全学年に設定する。
- ② 「キラリ科」では、演劇的な活動を通して、楽しみながら想像力を働かせて表現する力を養う。活動の中で相手や登場人物の気持ち、場の雰囲気、表現物のテーマ、共に演じる仲間の気持ちなどについて考える機会を持つことで、他人の気持ちを想像できる児童を育てる。
- ③ 「キラリ科」では、貴重な経験の一つとして専門家による音楽や演劇などの鑑賞を行う。自分たちが行う表現とは違う表現活動に出合わせることで、美しさ、楽しさ、素晴らしさなどを感じ取らせる。そして、その表現の技法を模倣したり、アレンジしたりして意図を持って自分の表現に取り入れようとする児童を育てる。
- ④ 「キラリ科」や他の教科で培った多様な表現力を生かし、学年の発達段階に合った創作劇を行い発表する。そこでは、一人一人が役を演じるとともに、音楽、振り付けなど自分たちで表現の工夫を行い、自己実現の場とする。また、各学年の演劇を鑑賞し、それぞれの表現のよさ、工夫などを見つけ、認め合う機会とする。さらに、保護者や地域の方を招き、児童を育てる立場の人たちが、表現することの素晴らしさを感じたり、児童のよさを見つけたりする場とし、地域への表現活動の発信とする。
- ⑤ 国語科や音楽科、図工科だけでなくすべての教科で表現力を培い、それらに関連させて表現する力を高める。
- ⑥ 自己表現力は、集団の中での存在感や自己肯定感によって支えられる。支持的な人間関係を作るためには、他の人を思いやり自分を表現する力を育てる必要がある。そのために道徳の時間との関連を図りながら学級経営を行う。

以上のことから、人間の行動や芸術などのよさや美しさを感じ取ろうとする態度を育て、感じ取ったことを基に自分の思いや意図を持って言葉や身体などで創造的に表現する力を伸ばすことができるであろう。また、集団の中での存在感や自己肯定感を高め、他とのコミュニケーションを円滑にする力も身に付けることができるであろう。

そして、これらは、今求められている豊かな人間性の育成の基盤となるものであると考える。

2. 教育課程の特例(学習指導要領によらない部分)

- ① 「キラリ科」の時間を全学年年間 70 時間程度設定する。
- ② 国語科, 音楽科, 図工科, 体育科, 総合的な学習の時間または生活科, 特別活動より削減する。

(別表1)

3. 研究計画

	研究内容等
第1年次	<ol style="list-style-type: none"> 1 3年間を見通した研究計画及び研究の構想と研究組織づくり 2 児童における表現力の実態調査 3 表現力に関する職員研修 4 「キラリ科」についての研究 <ul style="list-style-type: none"> ・「キラリ科」を教育課程の中に位置づける理論研究 ・「キラリ科」において身に付けたい資質や能力の選定 ・「キラリ科」の教材開発, 単元構成 ・「キラリ科」の提案授業を通じた試行 5 朝の活動での表現活動の研究(音声言語) 6 キラリ科を支える環境の整備
第2年次 (実施内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1 「キラリ科」において身に付けたい資質や能力の明確化 2 検証授業を通して「キラリ科」のカリキュラム研究 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教材開発, 単元構成 (2) 評価規準の作成及び評価法の研究 (3) 年間指導計画の作成 3 国語科の教科書の物語等を活用した教材開発 4 「キラリ科」と連携した他教科, 総合的な時間の授業研究 5 朝の活動での多様な表現活動の研究(音声言語) 6 「学び合う集団」づくりを目指す学級経営の研究 7 学習環境の整備(指導案, 学習教具, ワークシート等) 8 中間発表会 9 研究の見直しと修正
第3年次	<ol style="list-style-type: none"> 1 「キラリ科」の有効性についての実証研究(児童の変容) 2 「キラリ科」単元の見直しと修正 3 多様な表現方法を生かした演劇等の制作 4 家庭, 地域との連携 5 研究発表会 6 研究のまとめ(成果と課題)

4. 年次評価計画

<p>第一年次</p>	<p>1 本事業における評価</p> <p>(1) 表現意欲に関する調査(7月, 12月 全学年児童 教師 保護者)</p> <p>(2) 学習状況調査の実施(県4月 4～6学年, 町4月 2～6年)と結果分析 (8月)</p> <p>(3) 運営指導委員による所見をもとにした評価(7月, 1月)</p> <p>(4) 公開授業による保護者の評価(11月)</p> <p>(5) 公開研究会による参観者からの評価(2月)</p> <p>(6) 道徳性検査(3年生のみ)</p> <p>2 「キラリ科」の学習評価</p> <p>(1) 児童の自己評価等の記録の蓄積</p> <p>(2) 教師の指導記録及び通知表「学びのたより」への記録</p> <p>(3) 提案授業での検証</p>
<p>第二年次 (実施内容)</p>	<p>1 本事業における評価</p> <p>(1) 語彙力, 表現意欲に関する調査(7月・12月 全学年児童 教師 保護者)</p> <p>(2) 学習状況調査の実施(県4月 4～6学年, 町4月 2～6年)と結果分析 (8月)</p> <p>(3) 運営指導委員による所見をもとにした評価(7月, 1月)</p> <p>(4) 公開授業による保護者の評価</p> <p>(5) 公開研究会(中間発表)(11月)による教員の評価</p> <p>(6) 道徳性検査(4年生のみ), 学級集団検査(3, 5年生)</p> <p>2 「キラリ科」の学習評価</p> <p>(1) 児童の自己評価等の記録の蓄積</p> <p>(2) 提案授業での検証</p> <p>(3) 表現の技能を客観的に評価する方法及び評価規準の作成</p> <p>(4) 教師の指導記録及び通知表の記録</p>
<p>第三年次</p>	<p>1 本事業における評価</p> <p>(1) 語彙力, 表現意欲に関する調査(7月・12月 全学年児童, 教師, 保護者)</p> <p>(2) 学習状況調査の実施(県4月 4～6学年, 町4月 2～6年)と結果分析 (8月)</p> <p>(3) 運営指導委員による所見をもとにした評価(1月)</p> <p>(4) 学級経営の児童評価, 教師評価</p> <p>(5) 公開研究会(11月)</p> <p>(6) 道徳性検査(5年生のみ), 学級集団検査(4, 6年生)</p> <p>2 「キラリ科」の学習評価</p> <p>(1) 児童の自己評価等の記録の蓄積</p> <p>(2) 教師の指導記録及び通知表の記録</p> <p>(3) 提案授業での検証</p> <p>(4) 「キラリ科」の学習と児童の人間関係構築への効果を客観的に調査</p>

4. 教育課程

(別表1)

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	学習の時間	総合的な 学習の時間	キラリ科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	252 (-20)	/	114	/	72 (-30)	66 (-2)	66 (-2)	/	88 (-2)	34	30 (-4)	/	60 (+60)	782	
第2学年	258 (-22)	/	155	/	70 (-35)	68 (-2)	68 (-2)	/	87 (-3)	35	30 (-5)	/	69 (+69)	840	
第3学年	213 (-22)	70	150	70	/	58 (-2)	58 (-2)	/	85 (-5)	35	30 (-5)	70 (-35)	71 (+71)	910	
第4学年	202 (-33)	85	150	90	/	57 (-3)	58 (-2)	/	88 (-2)	35	30 (-5)	70 (-35)	80 (+80)	945	
第5学年	159 (-21)	90	150	95	/	46 (-4)	48 (-2)	60	87 (-3)	35	30 (-5)	72 (-38)	73 (+73)	945	
第6学年	157 (-18)	100	150	95	/	46 (-4)	48 (-2)	55	85 (-5)	35	30 (-5)	70 (-40)	74 (+74)	945	

5. 具体的研究事項

一年次の「キラリ科」の目標及び内容について検証授業を通して見直しを図った。

① 「キラリ科」の目標の見直し

【教科の目標】

演劇的な表現や鑑賞の活動を通して、自己を認識し他者を理解する能力と豊かな表現力を養い、よりよい人間関係をつくらうとする態度を育てる。

ア 「演劇的な表現や鑑賞の活動を通して」について

「演劇的な表現や鑑賞の活動」とは、「①コミュニケーションゲーム」、「②表現遊び・劇遊び」、「③劇づくり」、「④鑑賞」の4つとし、以下略して「演劇的な表現活動」と呼ぶこととする。

イ 「自己を認識し他者を理解する能力」

「自己を認識し他者を理解する能力」とは、物語や脚本を活用した劇作りの場合は、主に「人物の心情や場面の様子を理解」する力、その他の劇作り及び、コミュニケーションゲームや表現遊びの活動においては、自分のよさに気付いたり身近な人たちとの関係に気付いたりする」力のことである。

【各学年の目標】

	A 表現	B 鑑賞
一・二年	<p>(1) コミュニケーションゲームや表現遊びなどの活動を通して、場面や相手に応じて楽しく言葉や動作で表現することができるようにするとともに、進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 身の回りの事物や言葉などから、感じたことや想像したことを即興的に表現する楽しさを味わわせ、体全体の感覚や技能を働かせるようにする。</p> <p>(3) 物語や詩、脚本などを読んで、場面の様子や人物の気持ちを想像し、台詞や動作などで表現することができるようにする。</p>	<p>(4) 親しみのある演劇の作品を見たり聴いたりすることに関心を持ち、その楽しさを味わうようにする。</p>
三・四年	<p>(1) コミュニケーションゲームや表現遊びなどの活動を通して、場面や相手に応じて楽しく適切に言葉や動作で表現できるようにするとともに、他者の個性を認め、進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 身の回りの事物や言葉などから感じたことや想像したことを体全体の感覚や技能を働かせて即興的に表現する楽しさを味わわせるとともに、的確に表現する能力を伸ばすようにする。</p> <p>(3) 体験したことや文学作品などをもとに想像を広げながら、登場人物の台詞や動作などを考えて役作りをしたり、場面の移り変わりを考えたりして演劇をつくることができるようにする。</p>	<p>(4) 親しみのある演劇の作品のよさや美しさに関心をもって見たり聴いたりするとともに、それらに対する感覚などを高めるようにする。</p>
五・六年	<p>(1) コミュニケーションゲームや表現遊びなどの活動を通して、場面や相手に応じて楽しく適切に言葉や動作で表現できるようにするとともに、実生活のさまざまな場面に置き換えて考え、進んで他者にかかわろうとする態度を育てる。</p> <p>(2) 身の回りの事物や言葉などから感じたことや想像したことを体全体の感覚や技能を働かせて即興的に表現する楽しさを味わわせるとともに、的確に表現する能力を高めるようにする。</p> <p>(3) 体験したことや文学作品などをもとに想像を広げながら、表現しようとする役柄を設定し、台詞や動作などをつくるとともに、立ち位置や、道具、効果音などを工夫して、効果的に舞台づくりをすることができる。</p>	<p>(4) 親しみのある演劇の作品を進んで鑑賞し、そのよさや美しさを感じ取り感性を高めるとともに、自分の表現に生かすようにする。</p>

② 「キラリ科」の内容の見直し

「Aコミュニケーション」、「B表現」、「C鑑賞」の3領域の構成を見直し、「A表現」、「B鑑賞」に改めた。

A 表現	B 鑑賞
<p>(1) 他者と進んで関わること</p> <p>(2) 即興的に表現すること</p> <p>(3) 演劇をつくること</p> <p>ア 脚本作り</p> <p>イ 言語による演技</p> <p>ウ 非言語による演技(視線, 表情, 動作, 立ち位置など)</p> <p>エ 舞台づくり(大小道具, 音響, 衣装, 照明等)</p>	<p>(1) 演劇を鑑賞すること</p> <p>ア 児童にとって親しみやすい作品の鑑賞</p>

【各学年の内容】

	A 表 現	B 鑑 賞
一・二年	<p>(1) 場面や相手に応じて楽しくやり取りできるようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 相手の目を見て、話したり聞いたりすること。</p> <p>イ うなずいたり、相槌を打ったり拍手をしたりしながらやり取りすること。</p> <p>ウ 友達の表現のよさや面白さを見つけてやり取りすること。</p> <p>(2) 感じたことや想像したことを即興的に表現できるようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 身の回りにあるものの感じや動き、人の気持ちを想像して、即興的に表情や動作、台詞などで表すこと。</p> <p>(3) したことや見たこと、物語を読んだことなどから想像を広げて台詞や動作などで表せるようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 人物の気持ちや場面の様子を想像して、簡単な台詞を考えること。</p> <p>イ 姿勢や口の形、間の取り方、強弱に気をつけ、はっきりとした発音で、気持ちや様子を思い浮かべながら読んだり話したりすること。</p> <p>ウ 人物の気持ちや場面の様子を想像して動作や表情を工夫すること。</p> <p>エ 手に持つ道具や身に付けるものなどを工夫すること。</p>	<p>(1) 演劇を見ることに関心をもつように、次の事項について指導する。</p> <p>ア 児童にとって親しみやすい演劇の作品を見たり聴いたりして、表し方のよさや面白さを見つけながら、楽しく見ること。</p>
三・四年	<p>(1) 場面や相手に応じて楽しく適切にやり取りできるようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 相手の目や話題にしているものを見て、話したり聞いたりすること。</p> <p>イ 共感的に相手を受け止める表情や動作を伴ってやり取りすること。</p> <p>ウ 互いの表現の違いや特徴などを考えながら進んでやり取りすること。</p> <p>(2) 感じたことや想像したこと、伝えたいことを即興的に表現できるようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 身の回りにあるものの感じや動き、人の気持ちを体全体の感覚を使って想像し、言葉や身体で表現すること。</p> <p>イ 簡単な物語を使ったり、楽しい物語を創作したりして、即興的に動作や台詞などで表すこと。</p> <p>(3) したことや見たこと、物語を読んだことなどから想像を広げて演じるようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 体験したことや想像したことや物語などの中から、登場人物の設定や場面の移り変わりを考えて簡単な物語や脚本を作ること。</p> <p>イ 間の取り方、強弱などに気をつけて、気持ちや様子が伝わるように読んだり話したりすること。</p> <p>ウ 物語や脚本に書かれている登場人物の行動や気持ちを読み取り、人物の性格や他の人とのかかわりなどを想像して、表情や動作に気をつけて演じること。</p> <p>エ 必要な道具や音響、衣装などを工夫すること。</p>	<p>(1) 演劇のよさや面白さなどに関心をもってみるように、次の事項について指導する。</p> <p>ア 親しみのある演劇の作品を見たり聴いたりして表し方の多様性に気づき、それぞれの表現方法の面白さや美しさに関心をもって見ること。</p>

五・六年	<p>(1) 場面や相手に応じて楽しく適切にやりとりするようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 相手の目や話題にしているものを見て、話したり聞いたりすること。</p> <p>イ 共感的に相手を受け止める表情や動作を伴ってやり取りすること。</p> <p>ウ 互いの表現のよさや特徴などを考えながら進んで話し合うこと。</p> <p>(2) 感じたことや想像したこと、伝えたいことを即興的に表現するようにするために、次の事項について指導する。</p> <p>ア 身の回りにあるものの感じや動き、心情などを体全体の感覚を使って想像し、言葉や身体で表現すること。</p> <p>イ 体の感覚を意識しながら、表したいものの特徴をとらえて表現すること。</p> <p>(3) したことや見たこと、物語を読んだことなどから想像を広げて演劇的表現をつくり、脚本を使って演じたりするようにするために次の事項について指導する。</p> <p>ア 体験したことや、文学教材などの中から、伝えたいテーマを決め、登場人物の設定や場面の展開を考えて脚本を作ったり脚色したりすること</p> <p>イ 視線や表情、間の取り方、強弱などに気をつけて、気持ちや様子が伝わるように読んだり話したりすること</p> <p>ウ 物語や脚本に書かれている登場人物の気持ちや場面の様子を読み取り、人物の性格や他の人とのかかわり、育った環境などを想像して、表情や動作に気をつけて演じること。</p> <p>エ 道具や音響、衣装や照明などを効果的に活用すること</p>	<p>(1) 演劇のよさや面白さなどに関心をもってみるように、次の事項について指導する。</p> <p>ア 親しみのある演劇などの作品を見たり聴いたりして表現方法の面白さや美しさに関心をもち、表現の意図や効果を考えるとともに、想像を広げること</p>
------	---	---

③ 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い

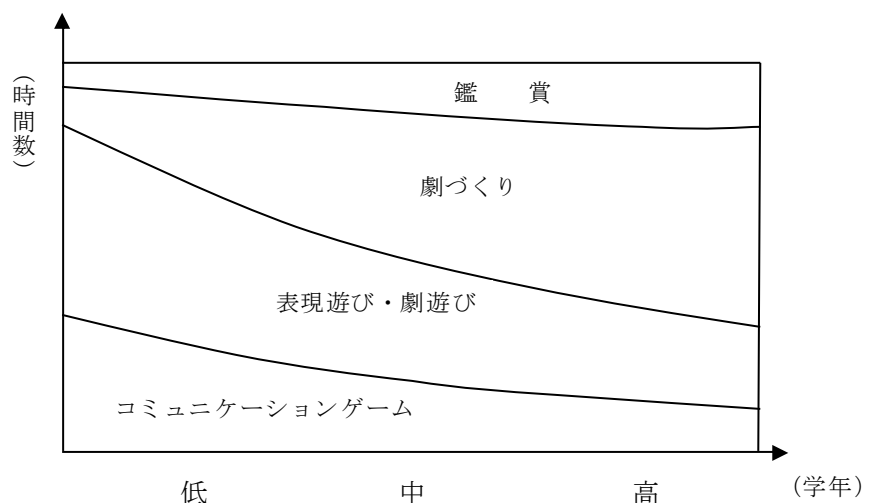
(1) 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 第2の各学年の内容については、児童の実態などを考慮し、2学年まとめた。内容について最初の学年において、学習活動の程度が高くないようにすること。

イ 第2の各学年の内容「A表現」の(1)、(2)、(3)の指導については、低学年では、(1)、(2)を重点的に扱い、中学年、高学年になるにつれて、(3)の割合が増える。(下図)

ウ 低学年においては、生活科や国語科との関連を図り指導の効果を高めるようにすること。

エ 音楽科や体育科、図工科との関連を図り、多様な表現方法を工夫したり、効果的に劇作りをしたりできるようにすること。



(2) 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 「A 表現」の(1)の内容については、ア、イ、ウのねらいが児童の実態を考慮し、無理なく身に付くよう、ゲームの要素を取り入れた学習を行うようにすること。

イ 「A 表現」の(1)、(2)、(3)は相互に関連を図り、(1)、(2)で学習したことが(3)で生かされるようにすること。

ウ 「B 鑑賞」の内容については、劇団が行う演劇を鑑賞する場合と、鑑賞会として児童が行う演劇を鑑賞する場合とすること。

エ 「A 表現」の(2)の内容については児童のイメージや表現を肯定的に捉え、共感的な指導をし、表現への抵抗感を抱かないように配慮すること。

(3) 「A 表現」の(3)の教材として扱う物語や詩は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 演じることによって、やりとりする力、想像力や言語感覚を養うのに役立つこと。

イ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役に立つこと。

ウ 生活を明るくし、強く正しく生きる態度を育てるのに役立つこと。

エ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

オ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

カ 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。

キ 世界の風土や文化などに理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

〔研究開発の成果〕

1. 実施による効果

(1) 児童への効果

児童に以下のような効果が見られた。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 演劇的な表現活動を取り入れたことによって、豊かに想像し表現する力は培われた。② 専門家による演劇や音楽、美術作品などの鑑賞活動を取り入れたことによって、感じる心は育った。③ 演劇的な表現活動を取り入れたことによって、よりよい人間関係をつくろうとする態度は育った。 |
|---|

①から③までの根拠として、次のことを挙げる。(詳細はIV「実施の効果」に記述)

【効果①について】

- ・ 気持ちを想像したり、様子を思い浮かべたりしながら文章を声に出して読めるようになってきている。
- ・ 観客を意識した舞台づくりを効果的に行うようになった。
- ・ 国語科の物語や詩を活用し、人物像を設定したり、行間を読み取ったり、書かれていない場面の様子を想像したりして劇にすることで、役になりきったリアリティのある表現ができるとともに、心情や様子の読み取りも深くなっている。

【効果②について】

- ・ 音楽や踊りなどいろいろな表現方法での演技や気持ちの表れた話し方や動き方などを観て、そのよさや楽しさを感じることができた。さらに自分が劇をするときに生かそうと思いつながりながら観るようになってきている。

- ・ 児童は、実物の美術作品や音楽の生の演奏を聴いて、感じたことを素直に表現できるようになってきた。絵の中に人物や場面を思い浮かべ、簡単なお話を作ることができるようになった。昨年度より元の作品の設定に合った展開をし、想像する力が培われている。

【効果③について】

- ・ 初対面の人やあまり仲間意識がない人にもスムーズに対応し、自分と違った考えを受け入れ、協力しようとする意識が高い。
- ・ 友達など他者に対して、自分の考えや思っていることを以前よりうまく伝えることができるようになり、自分から他者にかかわっていかうとするようになってきた。
- ・ 自分に自信をもつことができ、学校生活への満足感がもてるようになってきている。

(2) 教師への効果

- | |
|----------------------------------|
| ① 児童理解の高まりと共に教師と児童の関係もよくなってきている。 |
| ② 教師自身の表現力が向上してきている。 |

【効果①について】

- ・ 児童を理解しようとする意識の向上がうかがわれる。

【効果②について】

- ・ 専門的な指導者を招いての研修会を重ねることで自身の表現力の向上を自覚する教師が増えた。

(3) 保護者への効果

- | |
|---------------------------------|
| ① キラリ科に共感し、子どもとの会話を大切にするようになった。 |
|---------------------------------|

【効果①について】

- ・ キラリ科のことを話題とし、よく会話をするようになったという家庭が増えた。
- ・ キラリ科の効果といえる子どもの変化を捉えている。

2. 実施上の問題点と今後の課題

① 教育課程について

ア 問題点

- 目標については、概ね適切であるが、やや不適切な部分があった。
- 「Aコミュニケーション」「B表現」「C鑑賞」の3領域による内容構成は、やや不適切であった。
- 「コミュニケーションゲーム」や「表現遊び」の活動が不足していて、やや不適切であった。
- 国語科の教科書の物語や詩を全部取り入れることは、演劇的な表現活動に導きにくいものがあり、検討する必要がある。

イ 今後の課題

- 目標の一部見直しを図る。
- 内容を整理し、領域を見直す。
- 「コミュニケーションゲーム」や「表現遊び」の時間を増やし、年間指導計画での位置付けを検討する。
- 国語科の教科書から取り入れる物語や詩は、演劇的に扱いやすく、劇化することでより理解が深まるものを選ぶ。

② 指導内容・方法について

ア 問題点

- 劇づくりの学習の過程においてグループ内やグループ間での児童のやり取りがどのようにできればよいのか、明確ではなかった。
- 「劇をすることは楽しい」と答える児童は多いが、「劇は苦手」と感じている児童も少しいる。
- 物語や脚本に登場する人物や場面の設定を読み取る学習は、国語科との違いが明確ではない。楽しみながら読み取って想像を広げる指導のあり方を探る必要がある。
- コミュニケーションゲームで学習する内容が、日常生活に十分生かせていない。

イ 今後の課題

- イメージをやり取りしながら劇を作り表現する力を高めることを目指した教材研究や指導のあり方を探る。
- 学年の発達段階に合った劇づくりのあり方を探る。
- 「キラリ科が好きではない」「学校が楽しくない」「自分のことが好きではない」と感じている児童に焦点を当てて児童理解に努め、指導のあり方を探る。
- 日常生活に生かせるよりよい人間関係づくりのための力を育てるための「コミュニケーションゲーム」を開発する。

児童数 383 名，学級数 13 学級，教員数 21 名（平成 19 年 3 月 1 日現在）